

緑の地球

GREEN

EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

- 霧丘県に植物園を建設 P 2
- 訪日団のお知らせ P 3
- 夏の黄土高原ワーキングツアー P 4
- 二風谷のさわやかな風に吹かれて ... P 6



新しい井戸の水をみんなできそって汲み、まわしのみする（5ページ参照。広霧県苑西庄村）。

GENに参加するには

- ☆会員・会報購読者になる
- ☆自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する
- ☆ワーキングツアーに参加する
- ☆ビデオ『森よ、よみがえれ！』を見る
- ☆使用済みテレカ・オレカを集めて送る etc. あなたのご参加を待っています！

1998・9

63

山西省靈丘県に植物園を建設

～そのねらいと構想～

立花 吉茂 (GEN代表、花園大学教授)



靈丘植物園の予定地。湧水があるのが魅力

1998年8月5日、ミクロネシアから帰国後体調を整えるひまもなく、夏のワーキングツアーが大同から帰路につく日、単身北京へと向かった。今回の渡航は、大同の環境林センターでの実技、研修と新しく建設予定の靈丘県の植物園の現地視察とその基本構想づくりのためである。植物園の候補地は、先発の遠田、高見の両氏が7カ所も探して最後に見つけたところで、太行山脈のふもとにあり面積は約55ha、海拔900m~1300mの高低差がある理想的な場所である。山頂付近には遼東櫟 (*Quercus liaotungensis* Koidz.) の原生林があり、その下にはツツジ（花の小さいシャクナゲ系）、ハシバミ（榛）やオオハシバミ（大榛）の灌木林、草木層につづいて最下部にはニレ、シンジュ、クルミがあって果樹園のリンゴ畠に至り、ごく一部にトウモロコシの畠がある。この土地で最もありがたいのは、リンゴ畠のなかに湧水があって、その下部は流水となっていることである。

もともと太行山脈は、黄土の積もった場所や岩石の露出した場所が入り混じており、黄土のみの場所とはやや異質である。植物は繁茂しやすいと見て、上部（1300m以上）には天然林がある。靈丘県のこの地域を最初に見たとき「ここに植物園をつくったらよい」と私がつぶやいたものである。それがこの形で実現しようとはごく最近まで考えたこともなかった。

●そのねらい

植物園といえば、日本ではレクリエーションの場と思う人が多いらしいが、本来は、学校ができるまでのヨーロッパで

は自然科学の勉強の場であった。その後、進化論や遺伝学など今日の生物学の基礎研究がすべて植物園を舞台としておこなわれた。植民地では資源植物園となり、薬用植物園や農業、産業発展の基礎学問と応用学のメッカとなった。現在では環境問題研究の場ともなっている。

ここでは①自然の遷移を完成させる自然植物園②耐乾樹種導入の有用植物園③教育、技術目的の人材育成植物園などの多目的総合植物園となる。

私は24歳で大阪市立大学の植物園建設に参加していらい、72歳の現在まで4つの植物園づくりにかかわってきたから、これで5つ目になる。植物園づくりのために生まれてきたような人生である。

①自然の遷移を完成させることは、どのような意味があるのか？ 現在の植生は、森林があるとはいえない完全な自然ではない。ここ太行山脈一帯にはもっと多数の樹木類が記載されており、昔の姿が失われているように見える。現実に予定地を歩いてみると、山頂付近までヤギ、ヒツジの糞が途絶えることなく落ちていた。彼らが食べる樹木、草本類は姿を消し、彼らの食べない樹木、草本だけが残っているにちがいない。植物園として発足し、周囲に柵を張り巡らせると家畜のグレージングがなくなり、じょじょに昔の姿に戻るであろう。これを見ることによって、黄土高原の緑を把握することができる。またその記録は学術上も貴重であろう。

②有用植物園としては、中国内の他地域から黄土高原で育ち得る樹種を導入し、

次に外国からも乾燥地に適した樹種を導入育成する。また気長にアクリマチゼーションをおこなって緑化をすすめる。

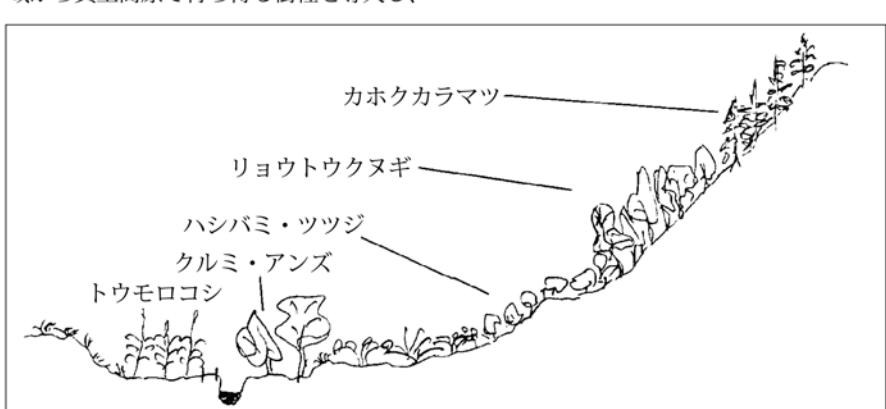
③人材育成は環境林センターでもおこなっているが、より多くの樹種を扱うには、より高度の知識と技術が必要になる。また遷移などの知識を会得するには、実務のできる現場が必要になる。それが植物園もある。この他に、地元や付近の人びとに与える影響は無視できないであろう。自分たちが見たことのない植物が育つのを見れば、どのように役立つか？ は彼ら自身でも考えるであろう。

●その構想

植栽の構想は図のごとく考える。最も上部は針葉樹林、傾斜の強い上部はリョウトウクヌギ（仮の和名）「遼東櫟」を中心とした樹林として、若干の補植をおこなう程度とし、その下部は灌木林、下部には有用植物試験林を設け、畑地や進入路付近には苗場、花木類などの観賞植物類をいれる。

これがおおざっぱな植栽構想である。この実現にはいくつかの予備的な仕事がある。まず、地図の作成である。図上作戦のできる実測図を入手して拡大図を作成し、植栽区域を書き込む。図面にしたがって道路づくりをおこなう。園への進入路、園内管理道路、見学道路の設置。次に少し高い位置にタンクを設けて貯水し、灌漑用水として用いる。事務所、作業所、倉庫、堆肥舎、園の外周柵の設置などは必須の作業である。

現在土地の取得、貸借などの交渉が、地元との間で進行中である。この調印が終われば、早速仕事ができるというきわめて異例のスピードである。組織や人的な構想は、予算次第である。県が異なるので、環境林センターとは別組織になるが、充分行き来ができるような形が望ましい。また地元がうるおうのような形の人的構成も望まれる。





緑色地球網絡訪日団のお知らせ あなたも歓迎にくわわってください

阪神大震災の爪痕があちこちに見られた前回から3年、大同から2度目の訪日団を迎えることになりました。

10月22日の到着から、11月1日の帰国まで、可能なところは公開して、みなさんの参加を歓迎します。通訳・ガイドのボランティアも歓迎！くわしくは同封のチラシをご覧ください。

また、10月24日にホームステイを引き受けてくださる大阪近郊の方を探しています。24日夜から、25日の午後咲くやこの花館に集合するまでのお世話をお願いします。詳しくはGEN事務所までお問い合わせください。

たびたびのお願いで恐縮ですが、訪日団カンパをつのっています。目標金額は80万円です。郵便振替で00940-2-128465「緑の地球ネットワーク」まで、通信欄に「訪日団カンパ」とご記入のうえ、お寄せいただければ幸いです。

【メンバー】

団長 趙仁家 大同市委員会副書記
秘書長 邱學峰 大同市青年連合会主席
団員 徐世立 大同市新栄区委員会書記
馮及時 大同県委員会書記
郝月生 大同市南郊区区政府区長
陳希明 大同市青年連合会副主席
邢雁俐 地球環境林センター所長
穆忠孝 大同市南郊区平旺村村長
王 萍 緑色地球網絡大同事務所
通訳
胡岳峰 共青団広靈県委員会書記
通訳 王黎傑 緑色地球網絡北京事務所
長

【スケジュール】

10月22日（木）午後、関西空港到着
23日（金）兵庫県川西市見学
24日（土）午前、大阪市内見学
午後、シンポジウム。夜、「徐園」で交流会。会員宅にホームステイ
25日（日）咲くやこの花館見学
26日（月）六甲山森林植物園見学
27日（火）神戸市西農協見学
28日（水）京都市内参観、近郊の森林見学。
29日（木）滋賀県朽木村朝日の森見学と交流
30日（金）東京に移動。協力諸団体を表敬訪問

31日（土）午前、東京見学。午後、シンポジウム、懇親会

11月1日（日）成田空港から帰国

* * * * *

訪日団歓迎実行委員会

●日時：10月2日（金）18時30分から

●場所：大阪市立弁天町市民学習センター（TEL. 06-577-1430、環状線・地下鉄中央線「弁天町」駅下車ORC2番街7F）

●問合せ：GEN事務所まで

スケジュールの大枠はできましたが、細かい詰めはまだまだです。具体的にひとつずつ検討しながら、「私はここにいっしょに行くよ」とか、「交流会でこんなことをしたら」など、みなさんのアイディアとご協力をいただきたいと思います。

* * * * *

緑色地球網絡訪日シンポジウム『黄土高原に緑を！ 現地の声をまじえて』

●日時：10月24日（土）13時20分～15時

40分

●場所：大阪府商工会館7F講堂（TEL. 06-271-0031、地下鉄「本町」4番出口）

●参加費：700円

GEN代表の立花吉茂さん、顧問の遠田宏さん（予定）に、祁学峰さんら現地からのナマの声をまじえて報告します。

※シンポジウム終了後交流会を開きます。

●日時：10月24日（土）17時～19時

●場所：『徐園』（TEL. 06-448-5263）

●会費：5,000円

* * * * *

関東シンポジウム『黄土高原での緑化の現状と将来（仮）～山西省大同市から訪日団を迎えて』

●日時：10月31日（土）14時～

●場所：立教大学池袋キャンパス（JR池袋駅、徒歩10分）12号館2階会議室（当日会場のTEL. 03-3985-2585）

※終了後、懇親会を予定しています。

緑の中 国

〈歴史篇〉 19

上田 信（立教大学教授）

た楚の家臣の名だとする説もありますが、史書には対応しそうな人物は出てきません。「楚の王が政策を決定しようとするとき、その側近たちの提言がいい加減で危うい意見を述べ、王の判断を誤らせた」と解釈してみてはどうでしょうか。

「椒」は日本で広くみられるもの（学名 Zanthoxylum piperitum）とは異なり、カホクザンショウ（学名 Z. bungeanum）です。その実は香りが強く、巫が神を降ろす儀式のなかで身を清めるために用いられたと考えられます。楚の人々は、一つの決断を下そうといはずまいをただそうとするとき、サンショウの香りをかいだのではないかでしょうか。時代は下りますが、中国では正月元旦にサンショウを調合した酒を神に献じたあと、家族で飲むという風習がありました。日本のお屠蘇の源流になる風俗ですが、あるいは楚の風俗の名残であったかもしれません。

楚人の生活が、多様な植物によって彩られ、香り豊かなものになっていたことは確かなようです。

『楚辭』に収められた屈原の代表作となる「離騷」には、多くの植物が登場します。なかでも「椒」（サンショウ）は繰り返し現れ、象徴性が強いように思われます。屈原が王に受け入れられず身を引こうかと考え始めるあたりで、次のような表現が見られます。

步余馬於蘭臯兮 余が馬を蘭臯に歩ませ

馳椒丘且焉止息 椒丘に馳せて、しばらく止息す

文字通りに解釈すれば、「ランの生える湿地に馬を歩ませ、サンショウの茂る丘に馬を馳せてしばらく休もう」となります。また、屈原は身の処し方に悩み、いにしえの神巫を呼び出そうとするのですが、そのときに、「サンショウの実と脱穀した米とを懷く」としています。

「離騷」後半で屈原は、楚の国の衰退について次のように述べます。

椒專佞以慢慆兮 椒はもっぱらへつらうに慢慆をもってす

ここで出てくる「椒」は屈原と対立し

夏の黄土高原ワーキングツアー 木々も子どもも、大きく育て

7月30日から8月7日の黄土高原ワーキングツアーは、21人の参加者のうち中学・高校・大学生が半分を占めた若さあふれるものでした。もちろん、社会人・中高年(?)パワーもまけてはいません。日誌から、その一端を抜粋して紹介しましょう。

【7月31日(金)】

●センター周辺には、手入れのゆき届いた苗圃が広がっていた。“苹果梨”という木が、センターの門近くに植えてあり、直径5、6cmの小さな実をつけていた。少し休憩して、散歩する。センターで働いている方に、温室の中を見せてもらう。“食べなさい、食べなさい”と大きな2本のキュウリをくれたので、早速洗って食べる。みずみずしくておいしい。甘い香瓜もいただく。温室の外には、トウモロコシ、マツ、ジャガイモ、カボチャ、苹果梨、ネギなどが植えられている。昼食前にはトウモロコシ、昼食後にはスイカ、と食べてばかりで、なにしに来たのやら……。(村重さやか・奈良・大学生)

●駅からバスに乗って、大同の町へ出ました。道路には、タクシー、車、自転車、ロバ、と人、がはしっていて、ええ?!なんていいう国ね?!って思ってかんげきしてしまいました。

雨がふっていて、植樹ができなくなつて、残念でした。でも、地球環境林センターへ行きました。ポプラという木を初めて見ました。とても不思議な形をしていました。

しばらくして、ライさん、白井さん、森川さんと私で、中国式の自転車をかりて、サイクリングに出かけました。中国的自転車は、とてもこぎやすくて上等でした。ぜひ1台買って帰りたいぐらいでした。アスファルト道じゃなくて、土の道を走りました。なんだか、昔の時代にいるような気がしました。まわりは、畠とか、ロバがいたりしたからです。(城間千恵・沖縄・高校生)

【8月1日(土)】

●農村での生活は思っていたよりもずっと「普通」のくらしだったように思います。「普通」のくらしというのは、日本の生活や都市の生活と比べるとかいう意味ではなく、あたりまえのことですが、彼らは彼らなりの、気候風土、生活習慣をもって、幸せに暮らしているということです。ですから、その暮らしを外から貧しいとか格差があるというのは何か違う

ような気がしました。私たちのできることは彼らに物質的な援助することではなく、私たちのもっているものを彼らの望みとどう結びつけるかだと思います。(森川洋子・北海道・団体職員)

【8月2日(日)】

●朝ごはんは、小さな子が迎えに来てくれて、別の家でごちそうになりました。そこでは、お父さんとお母さんが共同で作ったギョーザをメインに、朝から気持ちのこもったおいしい料理をいただきました。ほんの1泊のホームステイだったけど、中国の農家や子どもたちについて、今までの自分の価値観が変わりました。もちろん、泊めてもらった家は比較的裕福なところだろうし、その中でも私たちのためにすばらしいもてなしを用意してくれたんだろうから、本当の農家は知らないと思います。でも、どの家の人も親切で心の大きい人だったので、本当の農



家を知らなくても、普段から村のみんなで楽しく暮らしていると想像できます。確かに日本の方が生活は便利だけど、なんだかこの村の方がみんな素晴らしいものをもっているような気がしました。(辻田茉莉・大阪・中学生)

●朝、僕を起こしたのは子どもの中国語だった。5時だった。いくら泊めてもらっているからって、朝5時はカンパンしてくれよと思ったが、とてもかわいらしい子なので許してあげた。写真を撮ろうとカメラを構えると、5歳のくせにポーズをとったので、しっかりしたヤツだと思った。もっと子どもと遊びたかったが、時間がなくて仕方なかった。カメラをもっていると、5歳の悪ガキどもに囲まれ

た。恐かった。ガキどもの別れを惜しみながら次の村へ向かう途中、つくった果樹園のおかげで学校に行ける子どもが増えるかもしれないと思うと、うれしくなった。

村に着くと、山に登り、樹を植え始めた。(中略)植えた木が大きくなるまでの何年もの間、木を管理してくれるのは子どもたちだから、何年かたって木と子どもが大きく育ったら、また会いに行かねばならない。(松村有輝・大阪・高校生)

【8月4日(火)】

●ずっといろいろなところを見て、段々畑も山も緑でおおわれていて、これが春や冬には何もないなんて想像できません。特に今年は気候に恵まれて、例年より緑が豊かだそうです。高見さんによると、今年のツアーパーに参加した人には、こことの問題はわかりづらいだろうということです。緑が多いことも雨が降ることもいいことなのでしょうが、そのために自分たちの活動がさまたげられると残念に思つてしまうなんてずいぶん勝手な話ですね。やっぱり春と夏両方こなくちゃダメですかねえ。(小西美保子・大阪・大学生)

【8月7日(金)】

●さて、この旅を振りかえって気がついたこと、反省など思いつくまま書かせていただきたい。

・人……「緑の地球ネットワーク」の今日までの努力の積み重ねで、中国人びととの友好が築かれていることを肌で感じる旅だった。どこに行っても友好的に私たちを迎えてくれた。…感謝! 「ニイハオ」「謝謝」これしか話せなかつたけれど、目と目で、笑顔で通じた。でも、話せたらもっといい!

・学……植物、木のことなど、まったく知識のない私たたけれど、遠田先生のわかりやすい説明(実際見ながらの説明はよく頭にはいります)に、関心がもてた。これからはおおいに関心をもって、木や草花を観ていこう、と思う。

・知……懸空寺、雲崗石窟、万里の長城、明の十三陵、そして万人坑……中国の歴史を正しく学ばなければいけない。正しい知識を得ることの大切さ。同じものを見ても、知識の有無によって、感じ方が千差万別、見方が変わる。知ること、そして知らせることこそ大切だと思う。

・植樹……雨にたられ、木を植えるまねごと? しかできなかつたけれど、黄土と雨の関係が少しわかった。日本から愛情こめて、大きく育てと祈ってます!!(紙谷輝江・大阪・主婦)



広靈県苑西庄村

よろこびの井戸通水式

黄土高原での緑化協力は、テレビ朝日の素敵な宇宙船地球号で昨年放映され、大きな反響を呼びました。その舞台となつた広靈県苑西庄村で、井戸掘りに取り組み、地下176mで1時間15分の水脈にあたりました。ポンプ据えつけのさいは、夕方6時から翌朝4時の出水まで、全村の人々が井戸の周りに集まって見守りつづけたそうです。

みんな大喜びです。出水式では参加し

た全員が水を回し飲みしました。村の老人が私たちを取り囲み、「夢のようだ。こんなきれいな水はみたことがない。よそこの村に水をもらいに通った長い歴史に終止符が打たれた」といって泣きました。テレビ朝日のビデオを村の人たち全員にみてもらって、喜びを新たにしました。

郵政省国際ボランティア貯金と農協中央会の支援をうけて、従来から協力関係のある靈丘県史庄郷でももう1つ井戸を

掘りたいと考えています。この一帯では清代に掘られた深井戸が涸れたり、湧き水が何分の一にも急減するケースがこの10年以内に続出しており、「油を借りて返さなくても、水を借りたら必ず返さないといけない」といわれています。測定結果どおりここで水が出れば、6か村1,000人が生活崩壊の危機を逃ることができます。水源涵養のためにも緑化とあわせて計画したいと思います。（高見邦雄）

水の大切さを痛感

さとえ
小川 聖江（大学生）

7月23日から29日のJA主催のツアーでは、広靈県苑西庄村で井戸の通水式に参加しました。帰国後にいたいたお便りから一部ご紹介します。

（前略）今私にいったい何ができるのだろう。と考えたときに、やっぱり自分が現地に行って実物を見て、さわって、感じてこなければわからないと思いこのツアーに参加しました。

中国、大同に到着し、実際に目のあたりにしてみると黄土高原の現状は想像以上のものでした。ここで感じたことは「水の大切さ」です。日本では気づかない、あたりまえのように使っていた水が、ここでは生きるために必要な、本当に貴重なものだということがわかりました。水がなくては生物は生きていけないんだということを実感しました。その中で少ない水をうまく利用している現地の農民の知恵も学ぶことができました。

これまで黄土高原の「耕して天に至る段々畠」という言葉をただ漠然としかられていないかったけど、今、なんとなくわかったような気がします。人間がその土地で生きていくためには、どんなやせ

た土地でも耕して耕して食物を作らなくてはいけない。でも水がないので、畠の下の方には主食になるもの、上にいくにしたがって乾燥に強いものを植える。こうしてどんどん耕していって、とうとう天上までできてしまったという意味だったんじゃないかなと思います。

また、水で忘れないことに通水式でのことがあります。水を口にしていた村人たちがみんなほんとに幸せそうな笑顔をしていたことです。子どもたちも素直ないい子ばかりで、私は村を子どもたちと一緒に探検してきたんですけど、そのときも、みんな口ぐちに私に何かを伝えてくれたんですよ（でも言葉がわからなかったのがくやしかったので、勉強します）。ほんとうに水が出てよかったなあ、この人のたちは水を大切にしてくれるだろうなど、心から思いました。

村でアンズを植えたとき、高見さんから教わった方法には、本当に感心しました。砂漠に木を植えるのだから何か特別な方法があるのではと思っていましたが、まさかこんな方法とは…思いもよりませんでした。その土地にあるもので、村人が簡単に手に入れることができる材料を用いることが大事であり、そのことをふまえ、試行錯誤なさったことだと思います。この方法がいい結果を生み、後まで受け継いでいかれるといいなど心から思います。しかし、高見さんがおっしゃったとおり、この土

地の人にはこの土地で先祖代々受け継いできたやり方があるんですね。どんなに私たちがこっちの方がいいよと教えても、他の国の人にいきなりこれまでとはちがった方法を教えられて、何の抵抗もなく素直に受け入れられるはずがないですよね。それをどうやって、心の扉を開いて心を通じ合わせるかが、大きな課題ですね。自分たちのことを信じてもらひ、頼ってもらうこと（信頼）が何よりも大切だとつくづく感じました。

最後に、いろんな発見があった旅でしたが、今、私ができること、いくつか見つかりました。この緑の地球ネットワークのこと、もっとよく知って、私のまわりに輪を広げること、大学生のうちに専門である森林のこといっぱい勉強して、日本のいい森をたくさん見ようと思います。いい森がわかつてはじめて病んだ森を見れると思うので、いい木、いい土をたくさん見て、黄土高原の緑化に何か役立つことを探していきたいと思います。

GREENなんでも勉強会第3期

時代を感じ、時代を生きる

水俣で活動されたあと『緑の地球防衛基金』で中国やアフリカの緑化をてがけ、現在はタンザニアの環境問題に取り組む柳田さんをお招きします。

●講師：柳田耕一さん（地球緑化の会会長）

●第1回『私の水俣』9月25日（金）

●第2回『私の環境保護』10月16日（金）

●第3回『ビクトリア湖環境レポート』
11月13日（金）

●場所：GEN事務所

●時間：すべて18時30分～20時30分

●参加費：3回で2,000円（1回700円）



井戸の記念碑にて。「喫水不忘打井人」とある

ナショナルトラスト・チコロナイ
現地宿泊研修会

二風谷のさわやかな風に吹かれて

今年も夏の恒例行事、二風谷現地宿泊研修会が催されました。3泊4日の二風谷子供キャンプは13人、5泊6日の二風谷ワーキングツアーは部分参加も入れて20人が参加しました。今回は紙面の関係で、ワーキングツアー参加者の感想文を一部紹介します。全員の感想文集は、どちらも後日完成予定です。希望者には実費でお送りします。

●刺繡の体験ではおみやげ屋さんや博物館で見るときと異なり、その大変さや楽しみを知ることができ、緊張感あふれるアイヌ語学習の時間には、ほんのさわりの部分しか教えてもらっていないのだろうけれども、言葉を知る難しさと喜びがありました。帰りの飛行場で、千歳の地ビール「ピリカワッカ」を見つけたとき、「すばらしい水」と理解でき、なんだかすごく嬉しかった。

ウポポは離れたところから聞いていただけだと、少し退屈だなと思うのだけれど、実際輪の中で一緒に歌つてみると、なぜかすごく気持ちがよくなりました。(酒井さとえ・大阪府)

●～チコロナイの森を訪れて～

貝澤耕一さんの軽トラの荷台に乗せてもらい(こんなことをするのも今年3回目。幸せ!)、二風谷の風を感じつつ、到着。予想以上にすてきな森で、ここでナショナルトラスト運動をしていることをうれしく思いました。山刀をもった耕一さんはとってもカッコよかった。1日のんびりと木と対話しながらすごし、耕一さんに木で人形を作ってもらい、もっといたいなあ、と後ろ髪をひかれながら山を後にしました。何山か越えた向こうは、皆伐のせいで見晴らしがよいそう。ここがそんな風にならないように守っていかなければ、との思いを新たにしました。(川崎麻由美・兵庫県)

●8月の終わり、GENの活動にかかわって3年目、ようやく私はチコロナイの森に

たどりつくことができた。多くの人の、意志と力によって守られた北の雑木林は、明るい光と風に満ちた心地よい世界だった。否、心地よかったのは森の空気だけではない。二風谷という「アイヌの故郷」に集い、また暮らす人びとも笑顔の絶えない素敵な人ばかりであった。(中略) 自



然と限りなく近いところにいる人間の存在こそが、実は、豊かさの本質なのだと示唆してくれる。教化でもなく啓蒙でもなく、それは、二風谷になにげなくある民具や住んでいる人たちの姿のなかに、まるで、森を駆けぬける風に吹かれているような心地よさで、私の体のなかに伝わってきた。(工藤寛之・神奈川県)

●貝澤耕一さんのお話が、特に心に残りました。焼き肉の席でいわれたことです。次のように私は聞きとりました。「今、チコロナイのナショナルトラストをして、土地を確保したとしても地球全体のすさまじい破壊を思えば、いくらの役にも立

- 内容：・ビデオ上映
・講演（遠田宏氏、上田信氏）
・ツアー参加者の体験談 等

●参加費：500円

●主催：緑の地球ネットワーク関東ブランチ

●問合せ：藤原茂樹（TEL 060-247-2814）
上田信（TEL/FAX 042-323-5774）

※当日10時30分より、東北大学付属植物園見学会があります。案内は、同植物園元園長の遠田宏先生です。

たない。しかしこれに参加し、広げていくことは、さらなる破壊を食いとめたり、回復を願う人びとの夢と希望をつなぐ拠点になる。あせらず息長く続けることが大事だ」いいお話を聞きました。(上野白湖・北海道)

●アイヌ関連の本を読んでいるといつも暗く、悲しい歴史が影をおとし、アイヌと和人は憎悪関係という印象を深く受けてしまいました。実際にあった、また、実際にあるアイヌ・和人関係をふまえながら、ではこれから私たちはどうしていったらいいのか、これから和人はほんとうにの意味でのアイヌにとってのシサム（良き隣人）になれるのかどうか、それにはこれからどうしていったらいいのだろうと悩み、しかし答えは見つからず、いきづまっていました。しかし、チプサンケやその前夜の「シノッパンロー」に参加しているうちに、1対1の人間関係の中に大切なことのひとつには「同じことや同じ時間をお互いが心から共有できること」というのがあるように思いました。(船橋芽未・東京都)

●アイヌの人びとに強く魅きつけられるようになったのはいつごろだったでしょうか。環境保護を意識するようになってからか、自分のなかで価値観が大きく変わってからか…。とにかくかつては差別感さえもっていたアイヌの人びとに憧れにも似た感情をもつようになりました、いつかじっくりと勉強したいと思いました。(中略) この大きな流れの中で1人1人ができるることは本当にちっぽけなことだと思いますが、「何か」をはじめなければと思います。そのひとつがこの「ナショナルトラスト」であり、アイヌの人たちと交流し、その精神や文化を学ぶことだととも思います。(廣川純子・北海道)

●最後の食事のあととのあいさつで、工藤君が、「現地に来てみてわかったことが多かった。」というようなことを言われたが、私も、それと全く同じ気持ちだった。ただただ好奇心旺盛な性質がこのツアーに参加させたといってもいいだろう。しかし、何はともあれ行ってみること、それが、新しい世界、価値観を生んでくれることを実感した。(友永聰美・大阪府)

●知ったことを伝えていく。さあて、どう伝えていくか。拾いものもたくさんありましたが、宿題ももらったツアーです。まさに今、キーワードは共生と人権。アイヌの人びとはそれがことさら声高に言われるずっと以前から、生活のなかに

中国黄土高原緑化に関するシンポジウム

関西、東京以外でのはじめてのGENのイベントです。東北方面の方、ぜひご参加ください!

●日時：9月26日（土）13時～15時30分

●場所：東北大学付属植物園会議室（仙台駅よりバス（青葉城市循環／宮城教育大学行／青葉台行「扇坂」徒歩5分）

根づいているのだろうと思います。何か深い深いものがかくされているようで、私には抱えきれないもののように、ちょっとたじろぎますが、私は私なりにスタートだと思っています。(中略)

チュプカワー カムイラン
イワニテッカ オレーウ
イワーツィサム エタンネーマウ
アヌー ウボポ(すわり唄)
ふっとこの唄が口からこぼれます。

やさしい響
きです。9月
になったら、
1年生と一緒に
この唄を
楽しみます。
(細見美智
子・大阪府)



ナショナルトラスト・チコロナイ 現状報告

9月3日までに、447人から第1期からの繰越も入れて全部で5,653,808円が寄せられました。有難うございました。

第2期計画の目標は700万円です。この12月9日までに何とか目標を達成し、第1期で入手した山林と地続きの予定地が購入できるようにしたいものです。多くの方々の積極的な参加を呼びかけます。

【チコロナイ】連絡先】

武田繁典 〒546-0003大阪市東住吉区今川6-2-6 (TEL/FAX. 06-704-7720)
貝澤耕一 〒055-0101北海道沙流郡平取町二風谷31-3 (TEL01457-2-208FAX. 01457-2-3991)
郵便振替 00900-2-52024
加入者名「チコロナイ」

チコロナイアイヌ語講座 ~いやでもわかるアイヌ語~

第4期第4回

- 日時：9月19日（土）15時～17時
- 場所：GEN事務所
- 資料代：第4期（6回）分で2,000円
- 問合せ：平石清隆（TEL. 0745-23-5627）
★『エクスプレス・アイヌ語』（中川裕・中本ムツ子著、白水社）8からですが、『アイヌタイムズ』も読みます。1回だけの飛び入りも大歓迎です。（400円）。

第36回 チコロナイ学習会

- 日時：9月19日（土）17時～19時
- 場所：GEN事務所

チコロナイの森の植物たち(4)

武田 繁典 (チコロナイ部会担当世話人)

今回は今年の夏の現地宿泊研修会で、「僕の木、私の木」として、名札をつけたものを紹介します。

- 1 カツラ かつら科 ランコ (ranko)
勝山明彦
- 2 ミズナラ ぶな科 ペロ (pero なら)
入江美紗子、尾上昌也、伊田明美、大槻繭美、友永聰美
- 3 ハリギリ (センノキ) うこぎ科 アユシニ (ay-us-ni とげの生える木)
武田繁典
- 4 ホウノキ もくれん科 プシニ (pus-ni はぜる木)
尾上直紀、三木太加志
- 5 コナラ (イシナラ) ぶな科 ペロ (pero なら)
川崎潤一、川崎麻由美、船橋芽未、宮里幸雄、武田海
- 6 エゾイタヤ かえで科 トペニ (tope-ni 乳液の木)
入江俊輔、武田海、酒井さとえ、上野白湖
- 7 ヤマグワ (クワ) くわ科 トウレブニ (turep-ni)
尾上玉恵
- 8 シラカンバ (シラカバ) かばのき科 レタッタッニ (retar-tat-ni 白い樺の木)
入江智子、工藤寛之
- 9 シナノキ しなのき科 ニペシニ (nipes-ni しな皮の木)
高津篤志

- 内容：夏旅行のおみやげ話をみなさんで。国内、海外もりだくさん。10月のアイヌ文化体験交流集会の打合せもします。
- 参加費：100円+カンパ
- 問い合わせ：武田繁典
- ★初めての人も、1回だけの飛び入りも大歓迎です。

10 オオヤマザクラ (エゾヤマザクラ)
ばら科 カリンパニ (karimpaa-ni さくら皮の木)
廣川純子、宮里妙子、大槻幸恵

11 ヤチダモ もくせい科 ピンニ (pinni)
武田繁典

12 アオダモ もくせい科 イワニ (iwa-ni)
細見美智子

今年は、チコロナイの森にはいる日がともに好天にめぐまれ、今まで一番ゆっくりと観察し、全員が1本の木を選んでアイヌ語名も教わって、名札をつけました。また、枯れ木をノコで切って（ある人は手で、足で倒して）整理したり、大きなつるでブランコを作つて遊んだり、谷に下りてせせらぎを見たりして素晴らしい時間をすごしました。貝澤さんはひと通りの説明がおわると、枯れかけたアオダモの小さな木を切ってきて、腰の山刀でみんなにひとつずつ小さな人形を作ってくれました。

東西にのびた尾根の東にある小さい平坦地に、カラマツを切つて小さなログハウスの観察小屋を作ろうとか、遊歩道を作ろうとか、ササを切つて、下草のカタクリなどの山草を蘇らそうとかいろいろな夢を語りあいました。

チコロナイ通信のお知らせ

チコロナイ関係の行事予定、ミニニュース、「アイヌ語ひとくちメモ」などを載せた「チコロナイ通信」を毎月発行しています。郵送ご希望の方は郵送料ともで1年間分1,200円を80円切手15枚で同封のうえ、武田繁典まで申し込んで下さい。

交流・感動・体験

「アイヌ民族の人々との出会い」

30人。

- 10月25日 14時～16時 「講演とアイヌ民族舞踊」講演は平取アイヌ文化保存会事務局長、貝澤耕一氏『自然の中で育ったアイヌ文化』。舞踊は平取アイヌ文化保存会と舞踊体験をした皆さん。
- 主催・問合せ・申込先：大阪市立弁天町市民学習センター (TEL. 06-577-1430)
- 協力：緑の地球ネットワーク・チコロナイ部会



NGOがひらく未来

- 日時：10月3日（土）13時～17時
- 場所：大阪市立弁天町市民学習センター講堂（オーラ2番街7F）
- 参加費：1,000円（資料代として）
- 問い合わせ：関西NGO協議会事務局（TEL 06-377-5144）
基調講演、パネルディスカッションのほか、多くのNGOがブース参加します。

地球温暖化と食糧問題セミナー

- 日時：10月6日（火）10時30分～16時30分
- 場所：KKR ホテル大阪（TEL. 06-941-1122、地下鉄中央線・JR環状線「森ノ宮」駅下車西へ徒歩10分）
- 講演：①「COP3の意義と市民活動の役割」浅岡美恵氏 ②「中国黄土高原の緑化に挑む」高見邦雄氏 ③「世界の食糧問題と地球環境」中川光弘氏
- 参加費：無料（要申し込み）
- 主催：JA全中（JAグループ環境推進協議会）
- 申込み：地球温暖化と食糧問題セミナー事務局（TEL. 03-5295-741FAX. 03-5295-337Q）JA大阪中央会総務部（FAX. 06-920-2073）

ワンワールドフェスティバル

- 日時：10月18日（日）10時～16時
- 場所：花博記念公園鶴見緑地（地下鉄

鶴見緑地線「鶴見緑地」駅下車)
●入場無料（雨天決行）
●問い合わせ：関西国際交流団体協議会（TEL. 06-773-0256）

国際協力に関わる関西のNGOなどが集まります。世界の音楽・踊りや民族衣装、アジアの遊び、民族料理の屋台など、もりだくさん。GENもNGOテントに参加しますので、のぞいてみてください。

中国の大地から友情のしらべ…

- 日時：10月24日（土）14時～16時（開場13時30分）
- 場所：豊中市立アクリア文化ホール（阪急宝塚線「曾根」駅東へ徒歩3分）
- 協力券：2,500円（高校生以下・障害者1,500円、当日3,000円）
- 主催・連絡先：関西日中交流懇談会（TEL/FAX. 0797-88-2240）
中国貧困地域未就学児の就学支援コンサートです。

レインボーパレード

- 日時：11月7日（土）、8日（日）
- 場所：代々木公園B地区
- 主催・問い合わせ：レインボーパレード実行委員会（TEL.03-5468-6898）
パレードは8日13時から。また、7日の夕方には薪能（無料）もあります。GEN関東プランチもブース参加しますので、のぞいてみてください。時間等詳しいことは実行委員会まで。

ユニフェム チャリティーマーケット

- 日時：11月7日（土）11時～18時
- 場所：クレオ大阪西（JR環状線・阪神

「西九条」駅徒歩3分、TEL. 06-460-7800
クレオ大阪西フェスタでは、GENも参加するユニフェムチャリティーマーケットのほか、11月7日、8日の2日間、公開セミナーやコンサート、シネマサロンなどがあります。お問い合わせは上記まで。

林靖介 木工展

- 日時：9月28日（月）～10月4日（日）11時～19時（最終日16時まで）
- 場所：大阪 現代画廊（梅神東交差点南の辻東へ3分、TEL. 06-361-6088）
GEN発足当初からのメンバーである林さんが、木のぬくもりを大切に、ていねいにつくりあげた家具たちです。

線彩画 中村欣司個展

- 日時：11月1日（日）～7日（土）11時～19時（最終日17時まで）
- 場所：マサゴ画廊（大阪高等裁判所西へ20m、TEL. 06-361-2255）
繊細な筆づかいで描きだされる、どこかなつかしいような風景たち。黄土高原ワーキングツアーに2度参加された中村さんの線彩画をごらんください。

中国洪水被害義援金

- 長江・松花江流域で被害が出ています。
次の団体が義援金をつのっています。
- 【日本赤十字社】
郵便振替00110-2-5606、名義「日本赤十字社」 ※「中国洪水救援」と明記のこと。
- 【日中友好協会】
郵便振替00930-5-20156、名義「大阪府日中友好協会」 ※「中国水害義援金」と明記、1口1,000円。